

# 福岡県移住者子弟留学生 第3回報告書（11月）

テーマ

「勉強のこと」

ブラジル福岡県人会  
シルバー 石井 ジェゴ

九州大学  
システム情報科学府

(原文のまま)

私は今年の4月から九州大学のシステム情報科学府の情報知能専攻で人工知能（A I - Artificial Intelligence）について学んでいます。

母国のブラジルでは色々なボランティア活動をしていまして、そうしているうちに人の為になる物作りをしたいと思うようになりました、特に私の考え方を変えてくれたのがA B E U N I と呼ばれるボランティア団体に参加し始めてからです、ここではブラジルの貧しい人々に簡単な健康診断と歯の治療を提供していました。ここで他では経験できないようなことをしました、血圧を測ったり糖尿病検査の為に指をさし血から糖分を計ったりしました、私の専攻がコンピューター（I T）なの大学か違うところでは学べないことを色々しました、私がボランティア活動をし始めた一番の理由がシャイな性格を少しでも変えたいという考えからでしたが色々な人と出会ったり話す機会がありとても良い経験でした。

ブラジルでの経験を経て日本に留学する際には人工知能について学びたいということは決まっておりましたがボランティアをした際に医療関係のA Iに興味を持つようになりました。九州大学の研究室では病院やクリニックで使われる情報技術（I T - Information Technology）、例えばAIが医師の画像診断をサポートや生活習慣病リスクをAIで予測したり出来ます。

私が通っている場所は今住んでいる所から九州大学の伊都キャンパスへの通学には二時間かかるので週に授業がある日か研究室ゼミがある日に2回か3回ほど通っています、その他の時間は今住んでいる寮で一人で勉強したり、この留学プログラムにあるイベントや活動などに参加しています。

幼い時に日本に住んでいたのが日本語には自信がりましたが、大学での授業は研究室でのゼミでは専門用語などが多くどんなに言語に問題なくても苦労したことがあり、ゼミや授業の時に分からない事や言葉をメモして後でインターネットで調べたりしました。

また私は日本語の会話は問題なくできるのですが、ブラジルでは漢字を紙に書く必要がなく苦手なので九州大学の日本語の授業に通っていました一から日本を勉強しました。他にはKUFSA（Kyushu University Foreign Students Association 九州大学留学生会）と呼ばれるサークルの活動に参加して色々な国の方々と話す機会がありました、私は英語が理解できるのですが会話にはあまり自信がなくここで英会話を出来るいい機会でした。そしてタンDEM学習と呼ばれる活動に参加し、このプログラムでは母語の異なる2人がペアになり互いの得意な言語や文化を学びあうという学習形態で英語が得意なイスラエル人と一緒に私は日本語を教えて彼からは英語を学んでいます。

自分の母国に帰った後は日本での経験とこの留学で学んだ事を仕事やブラジル福岡県人会やボランティア活動にいかしたいです。

ブラジル福岡県人会  
池尻 明美 カリナ

九州大学薬学府

(原文のまま)

## 勉強のこと

私は今年の県費留学生として九州大学で薬学部を勉強しています。私のキャンパスの名前は馬出九大病院キャンパスと言って、吉塚駅の近くにあります。入学して以来月曜日から金曜日まで大学の研究室に行かなければなりません。そこでアミノ酸と言う物質と反応する DBD-F という分子の挙動を分析しようとし始めました。私はこんな実験はブラジルでしたことないでした。

アミノ酸の1つであるトリプトファンは、標準的な条件では検出できません。したがって、始めに、私の実験の目的は、DBD-F と反応するときにトリプトファンを検出させることでした。私は、DBD-F が4月から7月までの機能であることを調査しました。ただし、すべての調査を行った後、DBD-F でトリプトファンを検出することはできませんでした。幸いなことに、DBD-F に関する多くの情報を集めて、実験の新しい部分を始めることができました。

実際、研究室では、D型とL型として知られる2種類のアミノ酸の研究に重点を置いています。D形式は、検出が最も困難です。今日、分析技術の進歩により、D-アミノ酸は新しい生理活性分子として、またバイオマーカーとして認識されています。特に、D-アラニン (Ala)、D-セリン (Ser) およびD-アスパラギン酸 (Asp) は、人体および発酵製品に頻繁に存在することが知られています。それに伴い、8月からDBD-Fを使用した代替方法を開発し、人間の生理液および黒酢中のAla、Ser、およびAspのDおよびL形の測定に適用しました。

抄録を書き、12月に京都で開催される学会の結果を発表できるように、私は実験を行ってきました。10月に、10月25日までに提出する要約を書きました。それ以来、私は本当に忙しかった。それ以上に、11月には結果を改善し、ポスタープレゼンテーションを準備するために、さらに実験を続けなければなりませんでした。

実験の他に、時々私は実験室で参加したさまざまな活動があります。6月には、研究室では「Shiseido」の会社員のプレゼンテーションを見る機会がありました。私の研究室はその会社と提携しているからです。7月には、佐賀県で開催された学生会議にも参加しました。このような科学イベントに参加したのは初めてでした。日本語の講義やプレゼンテーションはあまり理解できませんでした。が、それでも非常に興味深いでした。このイベントの間に、九州大学の他の研究

室や他の大学の研究について少し学ぶことができました。典型的な食べ物や日本酒など、佐賀の文化についても少し学びました。8月、研究室で開催されたHPLCワークショップに参加しました。非常に興味深く、多くのことを学びましたが、多くの講義は日本語です。10月、研究室の人たちと一緒に鹿児島黒酢工場に見に行きました。工場で日本語で講義を見たけすごく学ぶことができ、とても面白かったです。黒酢の味は美味しかったです。

私のような留学生はいつも違うので、研究室は面白いです。そのうちの何人かは研究室に約1か月滞在し、別の学生は私のようにもっと滞在します。または、5年ほど研究室で習得して博士課程の学生になります。台湾、マラシヤ、タイの人々を知ることができました。それで、浜瀬賢治と呼ばれる私の教授は非常に知られており、彼は研究室での研究がどのように重要であり、どのように英語が不可欠であるかを言います。ほぼ毎週、研究室でセミナーを行い、学生のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションは英語で行われることもあります。

研究室が必要とするこのルーチンのために、私は非常に忙しく、予想したほど日本語を勉強する時間はほとんどありませんでした。また、ブラジルで自分の研究を使用できるとは思わないか、それが私のキャリアを向上させるのに役立つかどうか、私は非常に心配しています。それでも、日本に来てここで勉強することを受け入れて以来、私は最善を尽くし、研究室でエネルギーと時間を費やしてきましたが、学生会議の後、私はもっと自由な時間を持ち、より穏やかに楽しむことができることを願っています。残りの5か月しか残っていないので、日本の時間です。

ブラジル福岡県人会  
江藤 エンヒッケ イチロウ

九州大学  
システム情報科学府

(原文のまま)

私は現在、九州大学伊都キャンパスの大学院システム情報科学府で庄山正仁教授の指導のもとでマイクログリッド(MICROGRID)に適用されるパワーエレクトロニクス(POWER ELETRONICS)を研究しています。

電気工学で近年注目されているマイクログリッドとこの課題に関するトピックについて研究する事が目的です。

マイクログリッドとは、大規模発電所に頼らずコミュニティーで近くに小規模な発電所を設置し、分散型電源を利用することで家や会社などに電力を送るエネルギーネットワークの事です。

このエネルギーの発生源には、分散型原である太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などを利用します。マイクログリッドで再生可能エネルギーや光起電力技術で環境問題をさげ、そして、都会から離れた地方にも電力を届けられます。

もう一つの利点は、長い送電線に依存していないため、自然災害や厳しい気候のためにマイクログリッドが故障する可能性が低いことです。必要に応じて、電源のエネルギー貯蔵システムが作動します。そして必要に応じて、単独モードとネットワーク接続モードの両方で動作できます。

パワーエレクトロニクスは、比較的高レベルの電力の制御と変換を行う電気工学の分野です。電気工学、電子工学、制御システムの知識を含んでいます。パワーエレクトロニクス回路は、トランジスタ、ダイオード、サイリスタなどの半導体デバイスを適用することで実装でき、これらのデバイスは、応答時間が速い、時間の経過とともに消耗する可動部品がない、サイズが小さいなど、従来のスイッチと比較して利点があります。

パワーエレクトロニクス回路は、電力変換のタイプ(AC(交流) - DC(直流)、DC-AC、AC-AC、DC-DC)に応じて分類できます。交流電流は方向が時間とともに一定である直流電流とは対照的に、時間とともに方向が変化する電流です。直流電力は、最も一般的には、太陽光発電パネルやバッテリーなどの電源によって生成されます。現在、交流は、送電と変換の両方で直流よりも大きな利点があるため、主に発電と配電に使用されています。

マイクログリッドは、DCタイプの電力を供給するソーラーパネルとバッテリーで構成され、配電グリッドはACで動作します。これらの結合を実行するには、インバーター回路と整流器を利用する必要があります。システム周辺の電圧レベルで安定性を維持するために、パワーエレクトロニクスを使用した電圧および周波数レギュレータが使用されます。

理論的基礎を得るために、私はドラガン マクシモヴィッチ (DRAGAN MAKSIMOVIC) と ロバート ウォーレン エリックソン (ROBERT WARREN ERICKSON) によって書かれた本「POWER ELETRONICS」を勉強しています。

後、PSIM および MATLAB 計算ツールを使用してシミュレーションを実行する方法を学びます。電気自動車、ソーラーパネル、バッテリー、風力発電機を含むマイクロネットワークの電子電力システムを設計するためのシミュレーションが実行されます。

コロンビア福岡県人会  
坂本 サチ アンドレア

純真短期大学  
食物栄養学科

(原文のまま)

コロンビアで私の家族がケーキ屋さんを経営しています。純真短期大学で食べ物について学んでいます。

私はもう7ヶ月間日本にいます、まだ日本と日本語に慣れていっています。少しずつ日本語を理解出来るようになり、大学で料理と同時に日本語を勉強しています。大学は、私が通っていたのとはとても違いました。コロンビアで国際ビジネス管理を学びました。すべてが私にとって新しいものです。日本に来る前は料理のデザートについて勉強したことはありませんでしたが、好きだと気づきました。

純真学園大学では、日本語を話さなくてコミュニケーションが困難であっても、先生がとても親切で気長に待ってくれます。私が解らない時は英語やフランス語で教えてくれるので、今から何を作るのか、どの様に材料を調理すれば良いかを理解することが出来ます。私の担任はとても優しい方でした。いくつかの伝統的な日本のデザートを作る方法を学びました。特に好きなもの：抹茶ロール、レモンパイ、饅頭、餅、パン、クロワッサン、マドレーヌ、シュークリーム。他にも日本で覚えたのは蒸したデザートです。

最初の学期には6クラスがありました、栄養と応用製菓学のクラスがとても楽しかった。応用製菓学のクラスで日本のデザートをまなびました、様々なパンをつくりかたもできました。

コロンビアのお菓子と比べて日本のは砂糖が少ない気がしました。自分が取った科目のおかげで日本のいろんなコーヒーを味わったり、いろんなシェフに会うことができました。

2学期には私は授業の科目が少なかった、もっとデザートの作るのがふえたです。いっこのクラスで日本の伝統的な料理の作り方を覚えています。私は使用されている装飾と色が重要であることを知りました。

今月は大学でヨーロッパのデザートのつくりかたをおぼえました。ひとつのクラスではいろんな日本の食事のつくりかたをおしえてくれました、とてもたのしです。日本での自習では、日本料理はもちろん、ヨーロッパの料理までも教わりました。

製菓はお菓子を作るだけでなく、新しい味を生んだり、お客様に喜んでもらえるよう努力するものと学ぶことができました。調理場でのコミュニケーションはとても大事です。自分の目標である日本のお菓子を作れるようになりました。初めは、日本語がうまく話せず大学で友達を作ることが難しかったのですが、クラスに馴染んできて友達を作ることができました。



今まで大学にたのしんで行っています。コロンビアに日本のデザートレシピほもっていたとおもいます、日本の材料がコロンビアであんまりありませんけど、二つの国の材料を結合することができたらうれしです

在ボリビア福岡県人会

岩瀬 ケービン 司

第一自動車大学校  
自動車整備士コース

(原文のまま)

私の名前は岩瀬ケービン司ともうします、在ボリビア福岡県人会から来ました。今年2019年度の県費留学生です。第一自動車大学校とゆう専門学校に通っています。なぜその専門学校で勉強をしたいかとゆうと、実家が農業を営んでおり機会をたくさん使うので壊れた時に自分で直せたら時間やお金を節約できると思い決めました。

学校には電車で通っています。自分が電車に乗る時間は人がとても多くてびっくりしなれるまで大変でした。学校の初日は緊張と不安でいっぱいでした、どんな先生がいるんだろう、クラスメイトはどんな人たちがいるんだろう、仲良くなれるかな、勉強は難しいかなとか色々考えていました。一週間がたち何人かと仲良くなりました。クラスメイトは日本人が10名ぐらいでほかの人たちはネパール、インドとベトナムの人たちがいます。あわせて30名ぐらいいます。勉強はとても難しいです。特に専門用語、漢字と初めて聞くパーツの名前、授業は自分が思っていたのと違いました。どんなふうに違うかとゆうと自分てきには実習が多くてやりながら、なおしながら覚えるかんじだと思いました。でも午前中は教室で本を読み書いたりします。自分は漢字がすごく苦手で日本語でのパーツの名前を覚えるのがすごく大変です。自動車のパーツや部品はすごく多くて難しいです。自分は読んだり書いたりする覚え方より体を動かし現場でやりながらする覚え方のほうが好きです。それを先生に話すと先生はそうだけど最初はパーツ名部品名工具名を覚えなさいといけないよ それにその部品はどうやってうごいているのか、どの役目をはたしているのかを知らないといいたくても直せないよといわれ自分はそれもそうだなあと思い自分の考えがあまかったなと思いました。

月日がたつたびにクラスメイトともっと仲良くなり色々教えてくれたり、手伝ってくれたりしてすごくたすかります。10月には会社説明会があり、色んな会社の人たちがきました。トヨタ、ネットヨタ、日産、スバル、UD TRUCKS, ISUZU、HONDA, SUZUKI, フォルクスバーゲン、アウディ、ジャガー、ランドローバーさんたちがきてくれました。皆さんの話をきくのはとても興味深くて楽しかったです。会社のシステム、給料、売ってる車のしゅるい、トラック、各会社の階級制度、自分が一番興味をもった会社はジャガー、ランドローバーです。なぜなら給料もよくランドローバーやジャガーの車を運転や乗ったこともなくその車をいつかは買いたいと思っていたからです。学校の実習はとても楽しいです。ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンをばらし組み立てたりします。そのほかにも溶接、アーク溶接、ガス溶接をしました。ボリビアではよく溶接するのでまなべて良かったです。学校はとても楽しく先生や友達はとてもいい人で優しい方ばかりです。これからも色々学び覚えてボリビアに帰ってまなんだことを役立てないです。

アルゼンチン福岡県人会  
杉野ニコラス

九州大学  
システム情報科学府

(原文のまま)

この一年間に九州大学の学部でシステム情報科学研究院で勉強しています。研究生として入ったのでクラスに通う必要がありません。日本に来る前に研究と先生についてとても心配していました。しかし、先生と話して、自分のプログラムと目的を説明して、先生はすぐ理解してくれて、安心しました。

住む寮から九大の伊都キャンパスまでバスで2時間ぐらい掛かります。これを先生に説明すると、先生は「1週間に一回学校に来ていい」と言いました。学校に通わない日はプログラミングの研究を自分の部屋からインターネットで大学のコンピューターに接続して行います。この便利さで、通学時間の4時間も節約して、勉強にもっと集中できます。良いところあるけど、悪いところはあまり研究室に行かないから、研究室の仲間と友達になれないことです。

初めてキャンパスに行ったときに、キャンパスの大きさに驚きました。九大の伊都キャンパスは日本の大学で一番広いと言われたからです。教授法はアルゼンチンと比べてとても違いがあります。九大では自分の知識を使って、何か作ることはメインだから、一番大事なことは研究だと思います。研究室によって違いますけど、ほとんどの学生は大学に8時間以上いなければいけません。アルゼンチンは日本と違って、ほとんどの学生は通学しながら仕事をしますので、授業と試験に合格することがメインです。

最初の学期に大学院で受けた授業はコンピュータービジョンとパターン認識でした。九大の日本語のクラスも通ってます。そのクラスで他の学生と話す機会があり、たくさん友達をつくって、よかったです。

今日まで研究したことの結果がうまく行って、とてもうれしいです。初めは自分の研究の予定がはっきり決めてなかったのが、研究室の進行中の研究に参加したかったのが、先生は研究室の三つの進行中の研究を紹介してくれて、「どちらに参加したい？」ときいてくれました。選んだのは監視カメラと人工知能についてです。

アルゼンチンでは監視カメラに関係ある仕事をしていたので、コンピューター動画と画像の基本を知っていました。一方で、人工知能(AI)の技術をあまり使っていなかった、基本的な簡単な知識しかありませんでした。自分の能力とやる気をはかるため、教授が簡単な仕事くれました。その後で本格的な研究計画を説明してくれて、5月のころに研究を始めました。締め切り前に研究を終えるため、夏休み中とても頑張って、9月に結果が出ました。その時から、先月まで論文を書いて、マルタに行く会議に論文を提出しました。

12月3日に会議が行われ、私の論文が受け入れられたら、通知を受け取る予定です。受け入れられなくても、教授と助教授は「6ヶ月間でいい論文を書きました」と言ってくれて、とてもうれしいです。そして、京都で行う会議にもこの論文のショートバージョンも提出して、今月の19日に他の九大の大学院生と京都に行くつもりです。その会議では三日間の間に自分の研究について発表して、ワークショップに参加します。

ペルー福岡県人会

シバタ サウリルイス アンヘル コイチ

九州産業大学  
造形短期大学部

(原文のまま)

人々がグラフィックデザインについて話すとき、彼らはそれが絵か漫画であると思う、彼らはアートで正しいですが、グラフィックデザインはそれ以上です。

この職業は、広告、写真、イラスト、コピーなどの一部をカバーしています。

ペルーでは、7年以上グラフィックデザインの仕事をしています。私は現在、アートディレクター、フォトタッチャー、フォトモンタージュの広告のスペシャリストです。

インターコナル交換プログラムについて学ぶと、日本でのグラフィックデザイン教育のスタイルを学ぶことに加えて、新しいスタイルとトレンドを見ることができると知りました。

九州産業大学に到着したとき、私はそれが非常に強い挑戦であり、学生の中で最も経験が豊富であることを最初の瞬間から実感しました。そのように私は学生の教育と学習プロセスをよりよく分析することができました。教授は私を紹介することに加えて、他の学生に私がすでにこれを経験しており、疑問や質問があれば私にもできるとコメントしました。

通常、学生は質問をしません、私自身は自分の仕事、スタイル、仕事の方法についてアプローチし、話をしようとしています。

最初のサイクルでは、4つのコースを受講しました。

- ・ポートフォリオの作成
- ・コーポレートアイデンティティデザイン
- ・広告デザイン
- ・コース研究

ポートフォリオ作成は、最高の作品を選択し、印刷された本に転送するコースです。そのコースでは、レイアウト、画像の選択プロセス、INDESIGN プログラムを検討し、すべてをデジタル形式で本に転送してから印刷します。

コーポレートアイデンティティデザインでは、学生はさまざまな演習を解決するように求められました。たとえば、架空の会社を作成してアイデンティティを確立するために、コースのもう1つの演習はフラワーショップを開くポスターを作成することでした。

ペルーではそのスタイルの仕事に専念しているので、とても楽しかったです。そこで、学生のブランドを創造する創造性のレベルを観察することができました。

広告デザインコースは、私がこれまでで最も楽しんだコースです。

彼らが私たちに残した最初の仕事は、広告ポスターを作成することであり、そこで私たちが持っていたすべての専門的および個人的な資質を表さなければなりませんでした。アイデアは、ある会社に提示できるように、可能な限り最高の品質で行うことでした。

私の場合は、歌、野球、ペルーのサッカーチーム、お気に入りの映画「ロッキー」の4つのお気に入りの要素が反映されています。

次に、KIRIN ブランドの IR 茶を使用して、広告ポスターを作成しました。

実際、これらの2つのタスクは私をやる気にさせ、教授は結果に非常に満足しており、大学フェアでこれらの2つのポスターを展示しました。

コース調査は少し難しいものでした。私の主題は日本とペルーの広告の比較です。

それらを比較するには、日本とペルーの広告画像を探す必要がありました。それぞれの違いを書き、それを公開しなければならなかったため、それは非常に複雑でした。また、すべてが存在する Web ページを作成しました。

このコースは、私がコースの2番目の部分を取っているこのサイクルまで続きます。今は、ペルーをテーマにした日本の製品と、ペルーをテーマにしたペルーの製品を混ぜなければなりません。

9月に年の第2段階が始まり、私はコースを取り始めました：

- ・コース研究
- ・グラフィック印刷
- ・パッケージ
- ・キャラクター作成
- ・写真照明

このサイクルは、日本語をもっと話すように要求し、説明がより複雑になるため、より強く、より複雑になりますが、すべてを正しくしようとしています。

パッケージングコースでは、大学のフェアで私の作品を展示しました。

特別な活動として、日本に到着したとき、九産大チームの野球コーチと話をし、大学チームとトレーニングできるようにしました。彼の反応はとても親切で、彼らと一緒にトレーニングするように言った。私はすぐにチームの友達に加わり、もっと話しました。トレーニングは非常に強いので、私の年齢のために、時々追いつくことができませんが、もっと学ぶために一生懸命努力しています。

九州産業大学の大学生活はとても楽しくて面白いです。私は大学が本当に好きで、とても充実した施設で、スポーツはとても強く、先生はとてもフレンドリーです。

ありがとう九産大

メキシコ福岡県人会  
寺本 飯田 利生 アルツーク

福岡調理師専門学校  
調理師本科

(原文のまま)

私が通っている専門学校の名前は“福岡調理師専門学校”です。他の県費の人より少し厳しい学校です。

最初の数か月は、分からないことが多く少しきつかったが徐々に専門学校の生活を慣れ、楽しくなりました。一番難しかったことは、日本人の生活に慣れることと、言語でした。幸いなことに先生と学生たちは優しく、分からないときは簡単な言葉を使って説明してくれました。

授業ではまだ分からないことがたくさんありますが、以前と比べると格段に先生がおっしゃっていることが分かるようになりました。九月に実技試験があったのでとても緊張しましたが、7月から少しずつ勉強を進めていたので全て合格することができました。

専門学校では、一週間で三回実習あり、その度新たなことを学ぶことができるためとても面白いです。先生方は日本で使う材料や素材を丁寧に教えてくださっていて、その知識を生かし、中国料理、日本食、そして西洋料理を作っています。中国料理で学んだことは、油をたくさん使用するが、料理には油の重さを感じないところです。日本食で学んだことは、だしと旨味の大切さ、またおいしいご飯の炊き方です。知らなかった時より、これからは美味しいご飯を炊くことができると思います。西洋料理で学んだことは、日本人は毎日お箸で食べているのでナイフやフォーク、スプーンで食べるのは日本人にとっては難しいということです。

実習では様々な試験がありました。さばをさばいたり、大根のかつらむきなどの試験がありましたが、全て合格しました。今度はオムレツを作る試験があるので頑張ります。

そして、勉強のために二つのホテルに食事をしに行きました。最初に行ったのは“日航ホテル”で中国料理を食べました。そこでは初めて食べた料理がたくさんありました。広東式焼き物前業、紅花のフカヒレスープ、点心師「上田明詞」の蒸し点心、黄ニラと海のきの炒め、ハタ（吉岐産）の蒸し物、黒毛和種牛ホホ肉のやわらか煮込み、ピータン入り中華粥と果実入り杏仁立高を食べました。とても感動しました。福岡でこんな美味しい中国料理を食べることができすごくラッキーなことだと思います。二つ目に行ったホテルは“おくらホテル”で、そこでは西洋料理を食べました。西洋料理を今までに食べたことがありましたが、日本の材料で作った西洋料理食べたのは初めてでした。海の幸のメドレー小野菜のマリネビーツピューレの彩り香草のビネグレット、バターナッツのクリームスープニョッキのブルギニオン、甘鯛のポワレトマトのピストゥ本えのき罪とポ日数のエチュベサフランバターソース、鹿児島産黒毛和牛くりみのグリ酒屋風赤ワインソースマスタードシートのアクセントと



美食家のデザート盛り合わせを食べました。次は11月に日本食を食べに行くので楽しみにしています。

私は、この専門学校に入学できたことをとても嬉しく思っています。学んだことを、寮で晩御飯として皆にふるまったり、出来るだけ教えたりしています。メキシコに帰っても何度も作りたいと思います。

最後に私にこの機会を下さった福岡県の皆様に感謝しています。

(原文のまま)

## 学校で学んでる事

今年の4月から西南学院大学へ通い始めました。この時間内に私は多くのことを学び、教師と親しくなりました。西南学院大学で勉強できる機会をいただいた事にとっても感謝しています。たくさんの友人を作り、日本人の大学生の勉強の仕方を学びました。時々学校の勉強は大変ですが、素晴らしい経験だと思えます。

私の学期は2つのプログラムに分かれています。最初は日本人の学生と一緒に普通の授業を受けました。2つ目は、留学生向けの特別プログラムです。最初の学期中に、私の専攻に関連するクラスを取りました。地球科学や自然地理学などの授業を受けました。すべてのクラスは日本語で行われたので、少し難しかったのですが、良い日本語の勉強になりました。

自然地理学のクラスでは日本のさまざまな自然地形の種類がどのように形成されたか、なぜそれが重要であるかについて学びました。このクラスでは地形図と土地利用図の読み方も学びました。そして、日本で発生するさまざまな自然災害についても学びました。最後の課題のために日本の火山についてのレポートを書きました。このクラスの先生はとても親切で人生についてたくさんのアドバイスをくれました。

地球科学のクラスでは基礎について学びました。たとえば、引力、気候、地球の大気などです。クラスで先生は2011東北地方太平洋沖地震がどのように起こったかを説明しました、地震が日本に与えた影響を説明するビデオを見せました。町が津波に破壊されていく状況を見るのは非常に寂しかったです。このクラスには専門用語がたくさんあったので、大変でした。けどやはり良い日本語勉強でした。

以前にこれらの内容をだいたい母国の大学で学んだことあるので、日本の観点から見るのは面白かったです。学期の終わりに最終試験を受けて合格しました、とても嬉しかったです。夏休みに学校を約2週間休み、その後2学期が始まりました。

二学期は留学生プログラムをメインでしています。世界中から学生がいるのでこのプログラムはとても良いと思います。たとえば、ヨーロッパ、アメリカ、中国、アフリカからの学生がいます。

この学期中は日本語の勉強に集中しています。私は中級クラスに通っていて、新しい文法と漢字をたくさん学んでいます。日本語の授業に加えて、現在は日本に関連するさまざまなコースを受講しています。日本経済、日本憲法、日本社会学などのクラスに参加しています。これらのクラスは英語で行われるため、理解しやすいです。先生達はとても親切で、とても喜んで助けてくれます。

多くの困難がありますが集中し続け成長し続けることが重要です。これからも一生懸命勉強して、日本語と日本についてもっと学びたいと思っています。これまで私の日本で過ごした時間は素晴らしく、目を見張るものでした。私は自分自身について学び、人として成長したいと考えています。これからもよろしくお願いします。ありがとうございます。